

令和2年度第1回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 令和2年12月21日
午前10時開会 午後11時閉会
場所 伏見区役所1階ホール

次 第

1 開会

新任委員紹介

2 議題

「次期伏見区基本計画2025(案)」について事務局(川本企画課長)から説明。

3 質疑

橋爪委員

- ・ 新型コロナの影響下での計画策定となっており、今年度の第1回目の会議がこの時期となった。来年1月には、この計画案を市長へ報告する予定である。
- ・ 留意したいのは、コロナ禍でなすべきこと、少し先になるが、流行が収まった後のことも考えた計画内容にしなければならない。
- ・ 京都市基本構想が2025年までとなっており、計画策定期間の最後の5年間の位置づけとして、委員の皆様の多様な意見を踏まえた伏見区の基本計画を策定していきたい。

加藤委員

- ・ 計画案P2の『地域コミュニティの希薄化』は『地域コミュニティのつながりの希薄化』がより正確と考える。
- ・ また、これは意見になるが、計画案P3の取組方針1に『安心』の文言が2回出てきているので、整理をお願いしたい。また、取組方針1に『歴史・文化』を、取組方針2に『高齢者の生きがい』や『全ての住民』を追加できないかと思う。
- ・ 取組方針3には、地域づくりの要となる『自治参画』や『生涯学習』を柱として追加し、取組方針5に『伏魅力』を移動できないものか。
- ・ 取組方針4に『水と緑』を追加できないかと思う。
- ・ 以上、参考意見として聞いていただきたい。

関本委員

- ・ 新型コロナの影響により世の中が大きく変わったので、計画を策定するうえで新型コロナを踏まえた対策は必要だと思う。

畑中委員

- ・ 伏見区の東部に位置する醍醐で暮らしているが、伏見区として1つになれるようなビジョンを持った計画をつくっていきたい。

矢野委員

- ・ 幼少の頃から伏見に住んでいて、自然の歴史・文化の魅力が多い街だと思う。ただ、その伏見が持つ歴史的な魅力に触れる機会が少ないので、若者が集まる場所への情報発信が重要。

河村委員

- ・ 新型コロナの流行拡大により、区内の中小企業が大きな影響を受けている。観光業や飲食業をはじめとして、今では製造業まで影響が出てきている。伏見区にも、ものづくり企業が集積しており、経済活動が縮小してしまうと、地域も元気にならないので継続した支援をお願いしたい。

福井委員

- ・ 向島ニュータウンができ、約 40 年が経過した。この間、ニュータウンの再生をかけた向島まちづくりビジョンを策定し、115 項目の取組を進め、来年 3 月で終了する。この間、見違えるように再生に向けた取組がされた。現在、総括をしており、課題もいくつか残っているが、持続的な発展のためにも今後も引き続き、まちづくりの支援をお願いしたい。
- ・ 向島には広大な農地がある緑豊かなところで、向島秀蓮小中学校ができるなど魅力のある街である。

小倉（誠）委員

- ・ 各種団体をはじめとする地域と子ども達が触れ合う場がかなり減少している。
- ・ 今年は、成人式も中止になるなど子ども達が心理的な負荷を受けてきている。コロナが収まった時には、行政にも子どもが地域と触れ合う機会のバックアップをお願いしたい。

高橋委員

- ・ 計画案 P11 の合言葉「みんなが見たい、聞きたい、話したい」歴史がいきづく元気なまち」は良いと思う。次代を担う子どもたちに伏見を好きになってもらうことが大切で、そのためには、子どもたちにそれを伝える人が必要である。そういった子どもをたくさん育てていただきたい。

長嶋委員

- ・ 経営者と話しているが、雇用を守る、雇用を創出していくことが大事だと感じている。地域経済の活性化のための短期計画の策定も必要ではないか。

村上委員

- ・ 伏見で事業（商売）をしたいと思ってもらえるようにしていきたい。
- ・ 買い物なら伏見の商店街、お酒を飲むなら伏見産などといった空気感も計画案に織り込んでもらえたらありがたい。
- ・ 新型コロナで苦しい時期ではあるが、地域で助け合って、乗り越えていきたい。

谷内口委員

- ・ 計画案 P8 の取組方針 4 は環境分野であるが、この取組方針のみ 2 つであり、その他は 3 つあるのでバランスを検討してもらいたい。
- ・ 産業活動、京都らしい文化活動の基盤には環境が整っていることが前提であり、最近では『グリーンリカバリー』という概念も生まれてきているので、コロナ禍に対応しながら、そういった視点を集約した取組を設けてもらえれば良い。

矢部委員

- ・ JR 奈良線の複線化では、側道が狭く、児童の安全確保のためにアンダーパスの工事などを京都市や JR にお願いしたが、実現していない。このままでは不便なため、市が財政難であることは承知しているが、長期的な目線で検討をお願いしたい。

三木委員

- ・ 産業・観光振興の視点に加えて、起業家のスタートアップ支援は書かれているが、若者の雇用のマッチングまで踏み込んでもらえれば良い。コロナ禍では、黒字経営でも事業撤退の検討など、事業継承ができない面もある。

橋爪座長

- ・ スタートアップに加えて、マッチングについても京都市だけでなく伏見でも意識していただけたら。大学も多くある地域なので、地域への投資を意識したい。

山本区長

- ・ 各委員の地域活動へのご尽力に感謝している。いただいたご意見は計画案に反映していきたい。
- ・ 若者・高齢者への視点や、次代を担う若者への育成は大変重要である。コロナ禍で様々な苦勞をおかけしているが、ICTを活用した地域活動の多様な在り方の検討をしっかりと進めていきたい。
- ・ スタートアップや事業継承を含めた経済活動全般は区だけではなく、市や府ひいては国とも連携して支援に取り組んでまいりたい。また、伏見区には、商店街、お酒、野菜など多くの魅力があり、そういった魅力の発信や地域内の経済好循環づくりがこの間、改めて重要と感じているので、取組を進めていきたい。
- ・ 向島ニュータウンのビジョンは節目を迎えるが、これで終わりではなく住民の皆様の頑張りを引き続き、しっかりとサポートしていきたい。
- ・ JRの複線化では、児童の通学路など安心安全の目線をもって検討したい。一方で財政難の状況があり、いただいたご意見を全てそのままとはいかないが、引き続きしっかりと話をさせていただきたい。
- ・ 伏見への思いを感じる皆様のご意見を取りまとめて、今後5年間の伏見区のまちづくりを皆様と進めていきたい。

橋爪委員

- ・ 次期計画は伏見区で策定する3つ目の計画となる。表現は変わっても伏見区では、これまでから環境分野や経済活動の持続可能性を重視した計画づくりをしてきた。今回も重点戦略の中で持続可能性を念頭に置いた検討をしている。
- ・ 年内を目途に委員の皆様でご意見のある方は、事務局に一報してほしい。

4 閉会

村井副座長から閉会のあいさつ

- ・ 橋爪座長におかれては、伏見区の将来像の検討やこれまでの非常に豊富な知見もあり、全幅の信頼を置いている。今日（12月21日）は、『しまい東寺』の日であり、東寺が晴なら北野天満宮のしまい天神は雨といった俗説もある。
- ・ 細かいこととなるが、表紙には、『伏見区基本計画 2025』の西暦と令和の併記が見られるので、統一したほうが良い。
- ・ 加藤委員のご意見にもあったが、人権の視点を持つことも非常に重要であり、西日本最大の行政区の伏見区を安心安全に暮らせるまちにしていくのが重要。
- ・ 私も副座長の立場として参加しているが、橋爪座長をはじめ、委員の皆様、行政機関と一緒に、「伏見区に住んでいて良かった」と思えるまちになるよう頑張っていきたい。
- ・ 委員の皆様の立場それぞれからの多様な意見をいただき、それらを活かせるこの会議を大事にしていきたい。コロナの影響もあり、年末の開催となったが、お忙しい中、委員の皆様のご出席に感謝している。